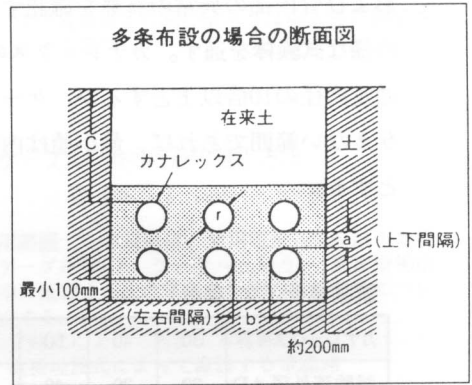


6. カナレックスの標準施工法

6-1 掘削

電気設備基準(143-2項)に基づき、カナレックスの埋設深さは、管路式に該当するので埋設深さの規定はなく、管に加わる車両、その他の重量物に耐えれば良いことになっているため、管の強度に応じて埋設深さを定めることができる。次に底部については、カナレックスが石、がれきなどと接しないよう平らにならし砂を敷き詰め、ランマー突き棒などでよく突き固める。なお、掘削幅はカナレックスの布設条数により決まる。また、カナレックスはJIS C3653(電力用ケーブルの地中埋設の施工方法)の波付硬質ポリエチレン管に適合するので、需要場所においては、管路引き入れ式として、土被りを0.3m以上とすることができる。



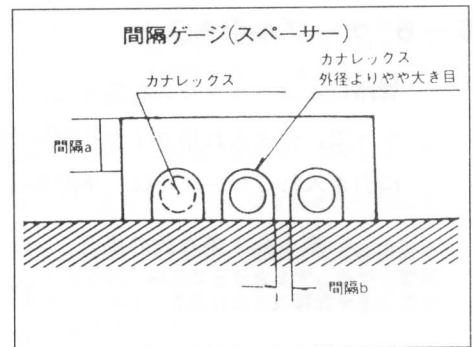
○最上段の土被り(C)
管の強度に応じて定めることが可能。

6-2 布設

カナレックスの口元部より、砂、水等が侵入しないよう注意し、カナレックスを布設溝に入れる。把巻の場合は、3~4人で把崩れが生じないようにカナレックスを手で押さえ布設溝にそって転がす。なお、土留のために切梁が掘削溝内に設けられている場合は、切梁間からカナレックスの末端を掘削溝内に入れ、管端にロープ等をつけ引っ張り込む様にする。

6-3 配列、整直、砂埋め

多条布設を行う場合、カナレックス相互の間隔を保持固定して配列するため、簡易なゲージ(スペーサー)を用意し3~4mごとに使用してカナレックスを整直する。その後カナレックスの回りを砂、又はこれに準ずる土で固定し、ゲージ(スペーサー)を抜きとる。カナレックスの布設には、他のケーブル管路のように固定あるいは相関確保のためのスペーサーは絶対に使用してはならない。尚布設に際しては、電気設備技術基準、第148条、第149条を参照のこと。

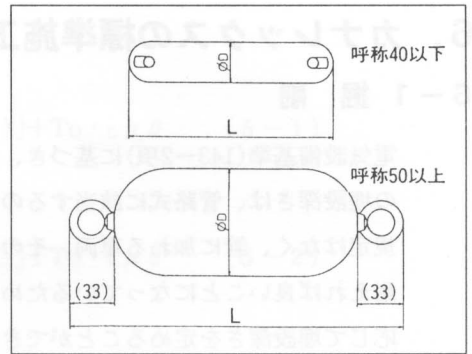


カナレックスの管間隔の最小値

呼 称	aの間隔	bの間隔
φ30・φ40・φ50・φ65	50 mm	50 mm
φ80・φ100・φ125・φ150	70	70
φ200	100	100

6-4 試験棒通し

土砂を埋め戻すまえに、カナレックスの整直度、および管内部の異常の有無を確認するために、図の様な試験棒を通す。カナレックスの曲げ半径は、通常内径の10倍以上とするが、ケーブルに支障を与えない範囲であれば、最小値は内径の5倍までとする。



試験棒は木、銅、アルミ製でシャープなエッジ、突起がないこと。

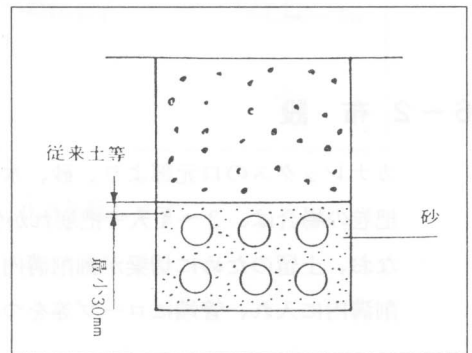
試験棒サイズ(参考)

単位：mm

カナレックス呼称	30	40	50	65	80	100	125	150	200
試験棒外径φD	20	30	40	55	70	90	115	140	190
試験棒長さL	120	150		200		300	350	400	

6-5 埋め戻し

布設溝にカナレックスを固定し終わったら、管路の中に標準試験棒を通し異常のない事を確認してから埋め戻しを行なう。図の様にカナレックスの上30mmまでは砂、または石やがれき等のない土(粘土質等塊になり易く、埋め戻し後しまりのよくないものは使用しないこと)で埋め戻して突き固め、その上で残りの部分は在来土等で埋め戻しを行い突き固める。



6-6 ケーブル引き入れ

管路口にはベルマウスを取りつけ、あらかじめカナレックスに挿入してあるパイロットワイヤーで、引き入れ用ワイヤーロープに引替えケーブル引き入れを行なう。又、カナレックスに引き入れるケーブルは、下記条件に合致していること。

※1孔1条布設の場合 $D \geq 1.5d$ かつ $D \geq d + 10\text{mm}$

D：カナレックスの内径 (mm)

d：ケーブルの最大仕上外径 (mm)

※軟弱地盤・不等沈下の予想される現場など、さらに管体の強度が必要な場合には弊社までお問い合わせください。

(弊社では、鋼板との複合構造の「パワーレックス」など高強度を実現した製品もございます。)